

スーパームーン



中友会副会長 平野 克彦

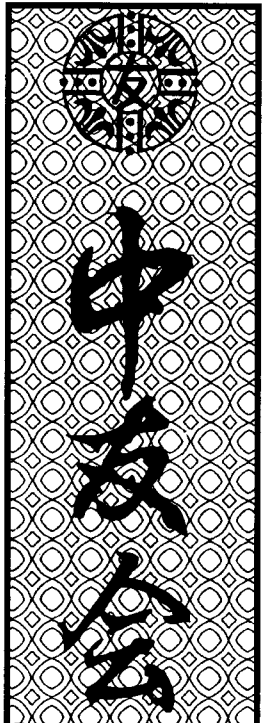
「影踏み」という遊びの経験はお有りでしょうか。正式には「影踏み鬼」といって、ゲームに参加した人の影を利用した、鬼ごっこ遊びのことです。先日、私の勤める専門学校の学生さんに聞いてみたら、太陽の下で遊んだという答えが返ってきましたが、昔からの「影踏み」は、月明かりの夜に行われるものであったようで、私の経験も月の出ている夜の遊びとしての経験です。

「影や唐禄神、十三夜の牡丹餅」などと囃しながら行われたといいますが、そんな囃し言葉の記憶はありません。

そういえば、今年の「十五夜」と「十三夜」は、それぞれ、九月二十七日と十月二十五日の共に日曜日でした。陰暦の八月十五日と九月十三日です。

「名月をとつてくれろと泣く子かな 一茶」
月を愛でるのに一年のうちでもことのほか上等な時期が今の季節といえます。十五夜を「中秋の名月」、十三夜の月を「栗名月」と称して、誰もが麗しき秋の月を眺めているのです。

中秋の名月のために、私は毎年「お供え」を準備します。まず、月見団子です。白く丸い団子は、月を連想させるとともに、神聖な「御饌（みけ）」を意味し、最も重要なお供えです。私は子どものころから、母の手伝いとして、団子の基で



[発行所]
中友会
港区西新橋 1-22-13
全日本中学校長会館 202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条
● 親睦
● 互助
● 生涯学習

<http://chuyu-kai.org/>

ある「上新粉」を練って丸めて、蒸し器の中に並べたことをやってきました。かなり最近まで手作りしていました。最近ではスーパームーンなどで、できあがっている製品を買ってくるのが多くなっています。昨年十月末の「スーパームーン」に「のぼり」が立っていました。「十三夜のお団子」と。購入してきて念のため数を確認したところ、この「十三夜のお団子」の包みの中身は、十五夜の際の十五個と一緒でした。十三個を期待した私の思いには合致しませんでした。世の中なかなか思いの通りにはいかないものです。

お供えでも一つ大事なものが「すすき」です。秋の七草（尾花、桔梗、葛、女郎花、撫子、萩、藤袴）を供えられれば最高ですが、今日はそうもいきません。すすきと桔梗などをセットして供えています。

十五夜や十三夜の習慣で私が好きなのは、お月見のお供えについて「盗み食い」が許されることです。およそお供えは、月見のために便利なように家の窓際に置かれます。それは、近所の子どもたちが、外から手を伸ばせば届く範囲なのです。子どもたちの摘み食いが、「お月様が召し上がった」と解され、歓迎されたことなのです。おらかなこんな風習は、今も有りたいたいと思っています。

調べてみると、月見の名所が日本のあちこちにあります。京都大覚寺では大沢の池に船を浮かべます。奈良の采女神社でも猿沢の池に船が出ます。また、松島、兼六園、姫路城など月を楽しむ行事が行われています。

中友会ホームページは、上記アドレスまたは、「中友会」で検索してください。

さて、今年の名月は二十七日の中秋のそればかりではないことを、マスコミは賑やかに伝えていました。「スーパームーン」です。九月二十八日に月は「望（満月）」となり、いわゆる「まんまる月」となります。

月は地球の周りを楕円軌道でまわっています。従って地球から見た月の「円盤」はその見た目の大きさを、始終変えているわけです。とりわけ今年、地球と月の接近距離が一番小さいときが、二十八日であり、月の円盤が最大に見えたのです。これが「スーパームーン」です。ウィキペディアによると、「近点の満月は、遠点のものよりも最大十四%大きく、三十%明るい」とありました。つくづく月を愛で、月明かりの風情をしみじみ心に浮かべるにつけ、いにしえの、と申してもたかだか私の幼いころの生活と、今日の子どもの達の生き方に随分の隔たりを感じざるをえないのです。

今日は、子ども達の関わりを中心にスマホがありSNSがあります。時に深夜徘徊が死に至ります。古来、満月の時には、動物にしても魚にしても、また、人間にしても、新しい命が誕生する瞬間を見せています。月が、地球の潮汐に関与しているからです。スーパームーンに、今育つ子ども達の生活の隅々を照らしてもらい、大人にも子どもにも、健全な人間関係の在り方や、人と人とのコミュニケーションの深め方を支援・援助して欲しいものです。「月が鏡であったなら」と昔から言うではないかと月見団子を頬張りながら考えたものでした。